

## 受け身から企画提案型産地を目指して 高野口パイルファブリック展



和歌山県高野口のパイル産地が「企画提案型産地」へ向けての動きを強めている。さらに、産地の課題である春夏向け強化の一環として薄地、軽量のパイル織、編み物の開発を強化しながら、より深く素材開発を進めている。高野口産地は、基布に毛（パイル糸）を織り込んだ（編み込んだ）特殊有毛生地を生産する国内唯一の産地。しかし、海外品の流入などで生産額はピーク時の5分の1にまで縮小。このままでは産地にもものづくりの火が消えてしまう危機感から、産地企業有志14社が立ち上がり、真剣に商品開発を行い3月15日、16日の2日間、東京六本木のオリベホールで堂々の展示会を開催した。

今回の「商品開発」そして「単独展示会」は、近畿経済産業局と和歌山県の支援を受け、(株)大阪繊維リソースセンター クリエイティブセクション 尾原久永（TDA正会員）が総合プロデュースを行いながら、朝比奈由起子（TDA正会員）（インテリア系開発担当）、仁井佳代子（TDA正会員）（アパレル系開発担当）の3名が約半年間産地へ入り、1社1社との綿密な打ち合わせを行いながら、産地メーカーとクリエイターの協働を実施してきた。本事業の具体的な取組みに協力いただいた朝比奈氏と仁井氏にそれぞれ感想を聞いた。